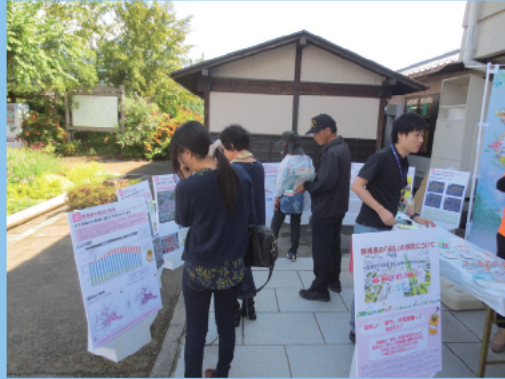


都市計画区域マスタープランの改定における 可視化ツールの活用について

～都市の課題をより分かりやすく～



群馬県県土整備部都市計画課

i-都市交流会議2020

1

1. 都市計画区域マスタープランの改定について

- 「第8回定期見直し」として、令和2年5月に告示予定。
- 複数の都市計画区域を跨ぐ広域都市計画圏単位で策定している。
- 人口減少、高齢化に対応した「持続可能なまちづくり」を実現するため、
 - ①「まちなまとまりの形成」に向けて郊外の土地利用方針を厳格化
 - ②「多様な交通手段の確保」に向けて公共交通の強化・快適化を主なポイントとして改定手続きを進めている。

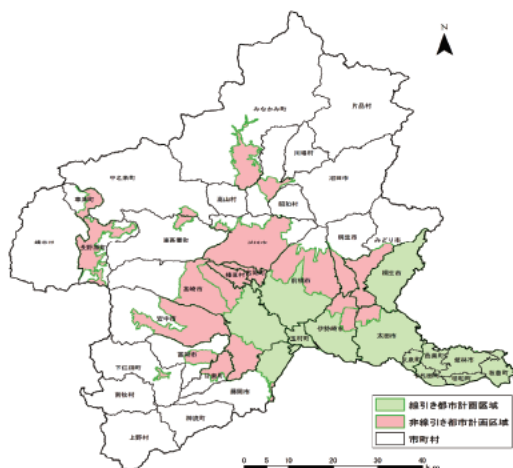


図1 都市計画区域の指定状況

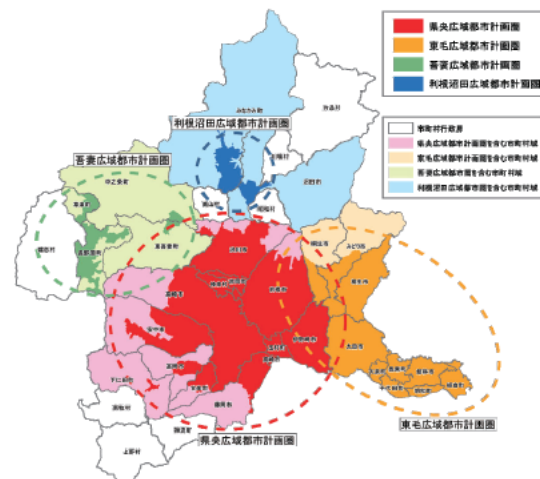


図2 広域都市計画圏

i-都市交流会議2020

2

2.群馬県の現状と将来について（人口推移）

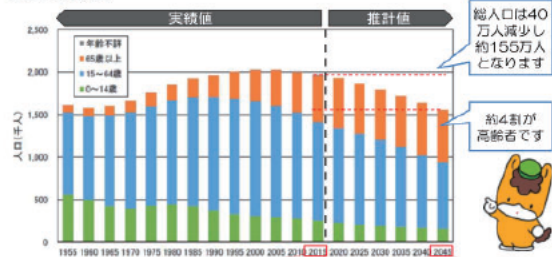
1 群馬県の現状と将来

1

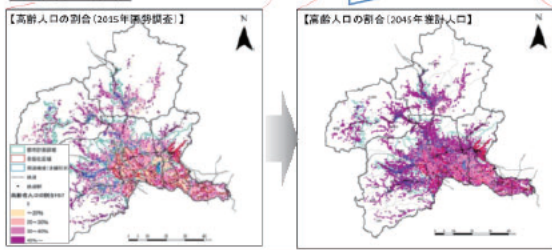
少子高齢化が急速に進むと予想されています

- ✓ 本県の総人口は 2004年の203.5万人をピークに減少し、2045年には155万人程度と予測(1980年と同程度)されています。
- ✓ 生産年齢人口は、現在(2015年)から40万人減少する一方、高齢者割合は増加し、2045年には人口の4割が高齢者となることが予想されています。

人口の推移



高齢者の推移



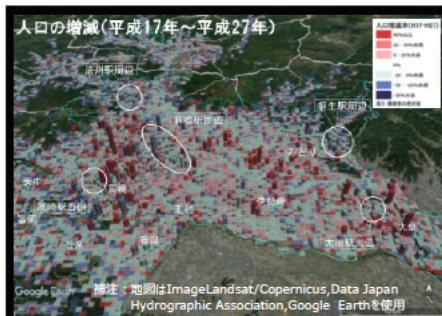
i-都市交流会議2020

2 これまでの人口推移

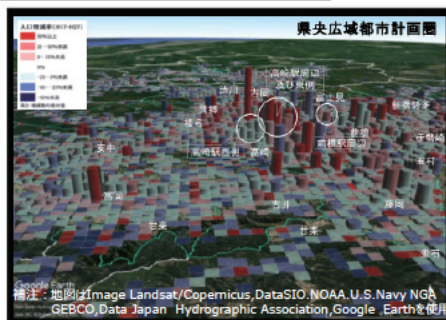
2

「まち」の中心部で人口減少数が多くなっています

- ✓ 「中心部での人口減少」はすでに始まっています。
- ✓ 平成17年から平成27年の人口増減では、県全体で人口が減少するなか、昔からのまどまりである市街化区域内や用途地域内でも人口が減少し、特に「まち」の中心部で大幅な人口減少が見られます。



- ✓ 高崎市でも、高崎駅の東側は人口が増加していますが、西側は人口減少数が多くなっています。



3

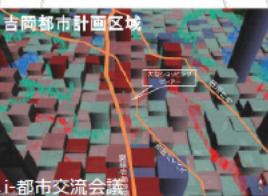
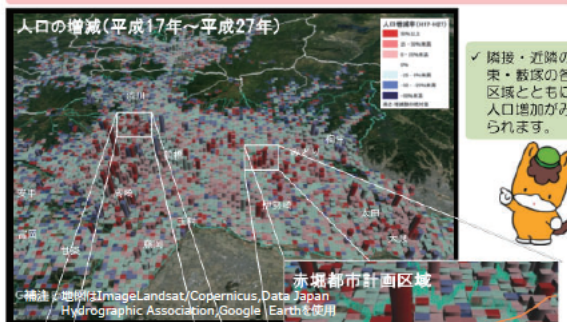
3.市街地の拡散について

3 これまでの人口推移

3

市街地の外側で人口が伸びています

- ✓ 平成17年から平成27年の人口増減を見ても、全体では減少が進むなか、一部、吉岡町や旧赤堀町などの市街地の外側に位置する地域で人口が増加しています。



i-都市交流会議

- ✓ 土地利用規制の緩いバイパス沿いに立地する大型ショッピングセンターの周辺で、人口増加がみられます。

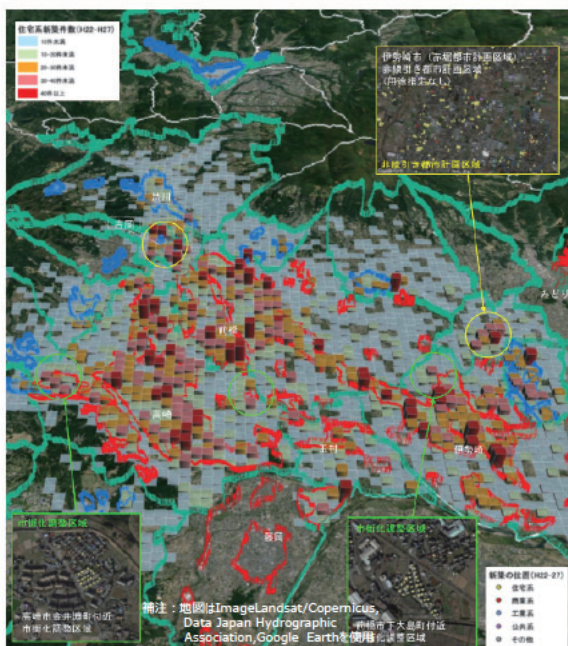


4 止まらない郊外への拡散

4

「まち(市街地)の外」に新しく住むひとが増えています

- ✓ 基本的には市街地において新築着工件数が多くなっていますが、市街地の外側でも、件数の多い地点が分布しています。



4

4. 将来の生活サービス施設・公共交通について

5 日常生活が不便なもの

5

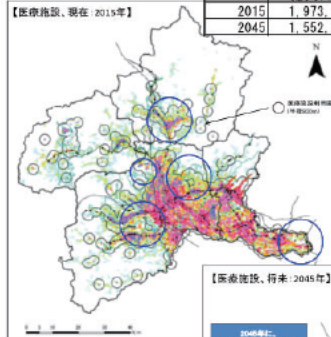
生活サービス施設は将来減少する可能性があります

✓ 人口減少と市街地の拡散により医療施設が撤退すると、皇近に医療サービスを受けることができなくなるなどの影響が考えられます。
(※ 高松、松坂市で、再計・再計を並べて)

医療施設

【医療施設、現在 2015年】

	総人口	圏内人口	カバー率
2015	1,973,115	1,924,887	97.6%
2045	1,552,950	1,380,322	88.9%



✓ 現在の医療施設の人口カバー率は約97.6%ですが、将来人口減少が継続し、撤退が発生すると、人口カバー率が約88.9%に低下します。

✓ 市街地周辺でも、人口密度の低いエリアでは、存続可能性が低くなっています。

【医療施設、将来 2045年】



人口減少による、医療施設の減少想定 (あくまで試算)



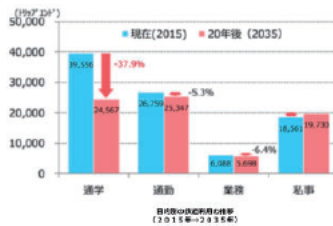
i-都市交流会議2020

6 公共交通の現状とこれから

6

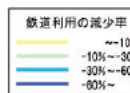
公共交通の運営が維持できなくなる可能性があります

✓ 公共交通の利用者減少により、運行本数の減少や路線廃止等が行われる可能性があります。それを利用している住民の生活が不便になる可能性があります。



高校生への影響

✓ 高校生は、飲酒の主たる利用者であり、公共交通利用圏には2015年現在、約80,000人の15歳から19歳の人が居住していることから、これらの人たちが通学を行う場合、さらに時間を要することが懸念されます。



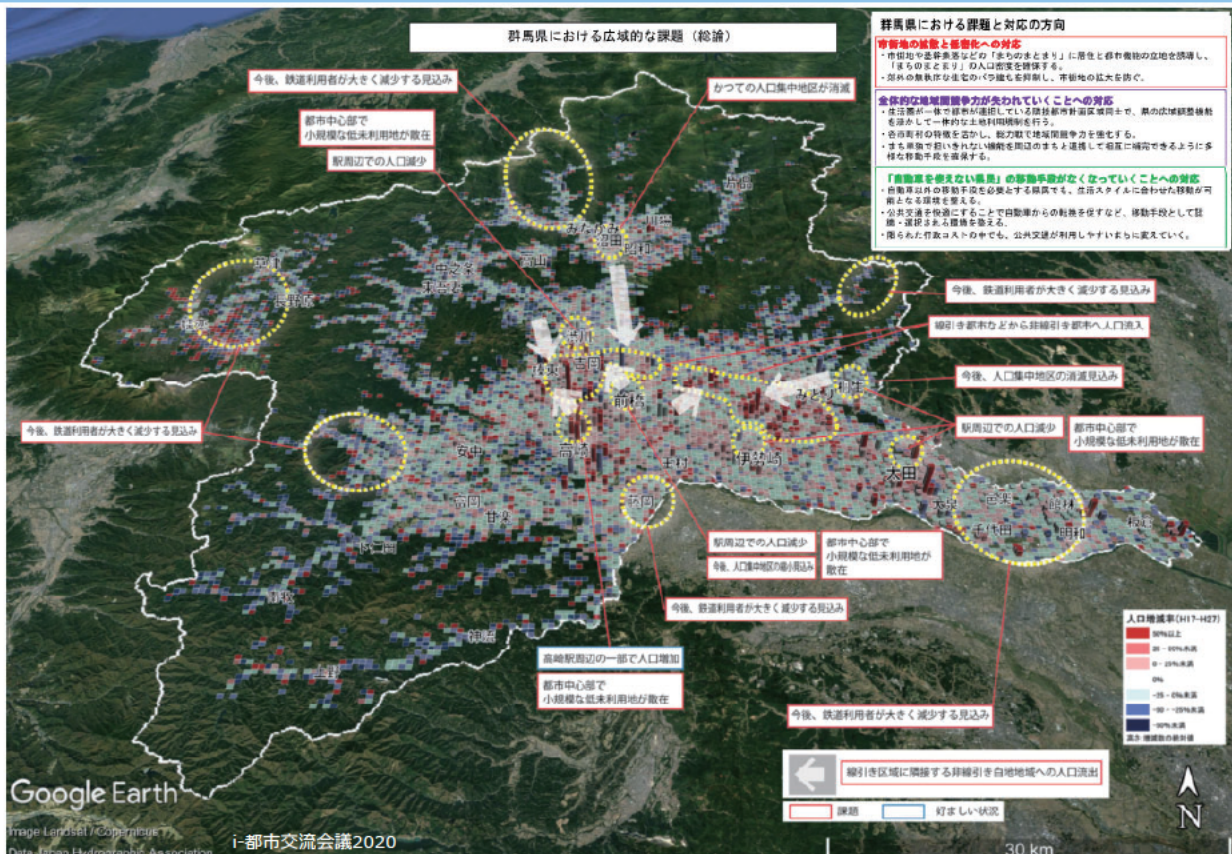
高齢者への影響

✓ 移動手段を持たない、あるいは将来的に持てなくなる可能性の高い公共交通利用圏の高齢者人口の割合は現在95.9%となっており、公共交通の利便性が低下すると、約500,000人もの高齢者が外出の機会を奪われる可能性があります。

○少子化により鉄道利用は大幅減少の見通し

5

5. 広域的な課題



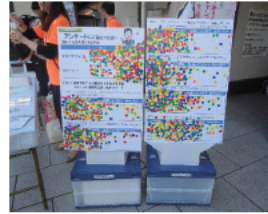
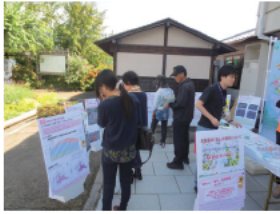
6

6. 県民意見反映措置に活用

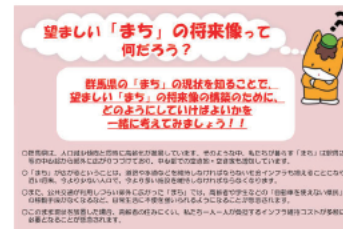
パブリックコメントの実施するだけでは、ほとんど意見は提出されない。

都市の課題を身近に感じてもらい、視覚的に分かりやすく説明することが必須。

○イベント会場やショッピングモールにてオープンハウスオープンハウスを実施



○県内の大学生と意見交換会を実施



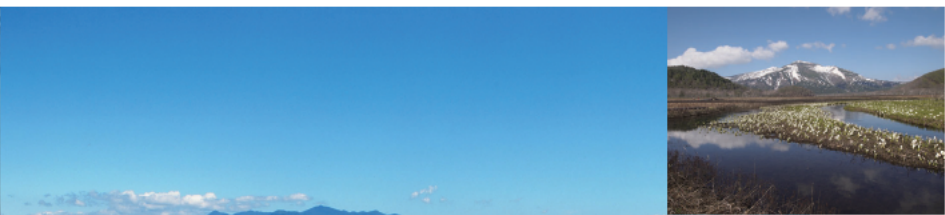
ヒアリングした意見は改定内容に反映し、県議会や都市計画審議会にも報告。

群馬県

都市の紹介



草津温泉



尾瀬ヶ原



ハッ場ダム



渡良瀬渓谷鐵道



浅間山



岡製糸場